

大学院特別プログラム 医学研究者、研究志向型医師を目指す方へ

医学部医学科在学時に選択できる大学院の二つのプログラムを紹介します。

一歩早く 基礎研究者へ

研究者養成プログラム (MD-PhDコース)

医学研究を志する医学科学生に対し、早期に研究の機会にふれ、医学・医療の急速な進歩と社会情勢の変化に対応できる若手研究者(基礎医学分野)を養成することを目的としたこのコースは、**医学科6年次に在籍してそのカリキュラムを履修しながら、大学院博士課程必修科目(共通コア科目8単位)および大学院共通授業科目(2単位まで)を履修することができます。**

医学科5年次・6年次に(特別)選考が実施され、原則として返還の必要のない奨学金(大学院博士課程の入学検定料、入学金および大学院入学後計3年間の授業料相当分、所属教室には6年次の履修に係る経費の助成を目的とした支援金)が給付されます。

特徴

- 医学部卒業年度は同期生と一緒に(医師国家試験受験可能)
- 入学科・授業料相当分の奨学金給付
- PhD取得後、卒後臨床研修も可能
- 優れた研究実績をあげた方を、特任助教に採用(条件あり)

1年次 1年次カリキュラム (全学教育)

2年次 2年次カリキュラム (医学専門教育)

3年次 3年次カリキュラム (大学院教育)

4年次 4年次カリキュラム

5年次 5年次カリキュラム

一般医学生 (6年次) → 6年次カリキュラム → 卒後臨床研修 (7年次~10年次)

MD-PhDコース (年5名限度) → 8月実施の大学院博士課程入試 → 選考 → 6年次カリキュラム (研究者養成プログラム 大学院共通コア) → 医学部医学科修了要件を充足 → 国家試験受験資格 → 大学院3年間のプログラム (計4年間の研究) → 奨学金授与 → 医学院修了要件を充足 → PhD称号 (特任助教へ採用も可能(条件あり))

○ 現行の選考実習の枠を基本的に基礎医学系教室において研究(大学院共通コア科目の修学前履修を含みます)

○ (特別)選考によって大学院へ正式に進学

○ 進学要件は6年次に大学院共通コア科目および大学院共通授業科目(2単位まで)の聴講(修学前履修)を推奨

○ 3年間の短縮修了制度を推奨

一歩早く 臨床志向型研究者へ 研究志向型医師へ

CLARCプログラム

CLinic And Research Combination

CLARCプログラムは、**臨床研修2年目に大学院に入学し、臨床研修と大学院での学修を並行して行えるプログラム**です。

あくまで臨床研修を主体とし、平日の17時以降に大学院の講義・研究指導を受けます。

このプログラムを選択するためには北海道大学病院の卒後研修プログラムのうち、2年目に北海道大学病院に在籍する研修コースを選択します。

地域医療など大学病院外で研修する期間は一時大学院での履修を中断できるので、安心して研修に従事できます(研修科との調整が必要となります)。また、基礎系教室の教員も指導教員として選択できます。

医学部6年次 医学部医学科 → 初期臨床研修2年目に北大病院に在籍するコースを選択 → 医師国家試験 → 博士課程願書提出: 所属教室の決定 → 初期臨床研修2年目から博士課程に入学 → 初期研修 CLARC → 大学院博士課程 CLARCプログラム → 大学院博士課程 (臨床医学系 基礎医学系) → 臨床志向型研究者 研究志向型医師 専門医*・医学研究者・教育者 など

卒後1年次 初期臨床研修

卒後2年次 初期臨床研修

卒後3年次 (基本領域) 専門研修

卒後4年次 (基本領域) 専門研修

卒後5年次 (基本領域) 専門研修

卒後6年次以降 大学院博士課程 (臨床医学系 基礎医学系)

*専門医になるためには専門研修を修了する必要があります。

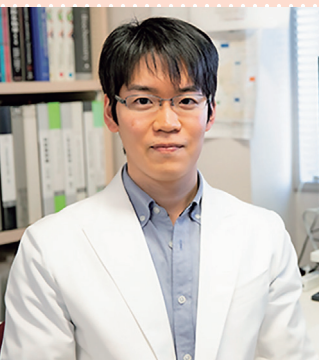
MD-PhDコース修了者

大志を抱いて

私は、2019年3月に北大大学院MD-PhDコースを修了し、同年4月より分子生物学教室(佐邊壽孝教授)の特任助教として、研究や医学教育に従事しています。

私は、医学部進学時より基礎研究に興味があったため、特別の迷いもなくMD-PhDコースへと進学しました。しかし、大勢が初期臨床研修を経て臨床医として働いていることを踏まえると、稀有な進路であることは間違いありません。医学部では疾患や治療法などを教わりますが、なぜそうなのかという根本的な問題については、講義時間数の限界もあり、深く教わりません。そのため、MD-PhD課程へ進学することは、「自分自身で知りたい、深く学びたい」という欲求を満たす一つの方法とも言えます。

現在は、癌の治療抵抗性や転移能の獲得をなさせめる分子機構を解明するべく「生命体としての本質とは何か」ということを意識しながら、他の教室とも連携し、研究を遂行しています。北大医学院には素晴らしい先生方がたくさんおられます。皆さんもぜひ、この道に進んでみてはいかがでしょうか。



北海道大学大学院医学研究科
分子生物学教室特任助教
(2021年4月から助教就任)

はるか
半田 悠 さん

CLARCプログラム修了者


CLARCプログラムを修了して

CLARCプログラムの卒業生として寄稿の機会をいただきましたので、私の経験と感想を述べたいと思います。

CLARCプログラムは、初期研修の2年目と大学院1年目を重ねるコースです。私は、たすき掛け制度を利用して1年目は北海道がんセンター、2年目は北大病院で勤務しつつ、この制度により北大腫瘍病理学教室の大学院1年目を兼ねることになりました。初期研修の2年目は臨床業務をこなしながら研究をするので少し大変ですが、臨床・研究の両面から疾患について考えられるこの期間は、医学に対する理解をより深めるよい機会となりました。

この制度のポイントとしては、早くから研究に触れられることだと思います。私が医学生の間は、基礎医学を勉強することの重要性をあまり理解できていませんでしたが、たとえ初期研修の1年であっても臨床の現場に足を踏み入れると、現代医学の複雑さや研究の重要性を身に染みて感じました。早くから医学研究の理解を深めることは、臨床医になる先生にとっても今後の長い医者人生においてかけがえのないものとなることと思います。

CLARCプログラムは、病理に限らずどの科でも選択できます。このプログラムの選択を考えている方は、所属する予定の科へまず相談してみてください。今後選択する方の参考になれば幸いです。



北海道大学
化学反応創成研究拠点
特任助教
さとし
谷川 聖さん